



# 第105回全国高校野球選手権青森大会

## 工大一、光星4強

2023 夏

大会第8日  
準々決勝2試合を行った。第1シードの工大一は岩手との兄弟校対決を制した。夏連覇を目指す八学光星は同球場で準々決勝の青森山田弘前、東義、弘学聖夢の試合が行われ、4強が出そろった。取材班

第105回全国高校野球選手権青森大会第8日は22日、弘前市はるか球場で準々決勝2試合を行った。第1シードの工大一は岩手との兄弟校対決を制した。夏連覇を目指す八学光星は同球場で準々決勝の青森山田弘前、東義、弘学聖夢の試合が行われ、4強が出そろった。取材班

高校野球速報

準々決勝



【準々決勝】弘前東八学光星、3回八学光星2死、池田優斗が左中間にソロ本塁打を放ち、4-2とする。弘前はるか夢

## 光星コールド勝ち 3発含む16安打、強打で圧倒

強打の八学光星が七回コールドで弘前東を圧倒した。新チーム発足直後だった昨秋の県大会2回戦で、1点及ばず惜敗した相手。雪辱を期した打線は16安打と爆発し、3本のソロ本塁打を放つ派手な勝利を飾った。仲井宗基監督は「ボール球に手を出さないことを徹底できた。攻撃に関しては及第点」とうなずいた。2-2の同点で迎えた三回、

強力打線が火を噴いた。先頭の長谷陸翔が右越えに1発。さらに、二死から打席に入った7番の池田優斗も続いた。内角の直球を振り抜くと、「外野フライかと思った」という打球は風にも乗って左中間スタンドへアーチを描いた。

前の試合までは不調だったが、力み過ぎていたスイングを改善。練習の成果が早速表れた。これで活気づいた打線は勢いを増し、四回には主砲で主将の中澤恒貴からも豪快弾が飛び出した。

4安打2打点と大暴れした池田は「相手のピッチャーに絶対に負けたくない気持ちは誰よりも強い」という根幹からの負けず嫌いな。チームは3試合連続の2桁得点と盤石だが、決して油断していない。「これからは投手のレベルも上がってくると思う。優心せずに、もう一度練習して挑みたい」と気を引き締めた。(千葉達也)



【準々決勝】弘前東八学光星、5回弘前東1死一塁、川崎崇斗が中前打で須藤聖聖(右)が生還、4-11とする。八学光星の捕手は藤原大斗

「やっぱり強い」  
弘前東主将脱帽  
○：昨秋の県大会で勝利した経験と緻密な分析で自信を養った。春の東北王者・八学光星とぶつかった弘前東、真っ向から打ち合いを挑んだものの、3本塁打を含む長打攻勢の前に無念のコールド負けを喫した。川崎崇斗主将は「やっぱり光星は強い」と甲子園常連校の実力を脱帽した。

敗れはしたが、チームの持味である打撃力は発揮した。事前の分析で相手先発の岡本琉琉は「変化球に

荒れ球が多い」と踏み、甘く入った球を狙い打ち。川崎主将と捕見風汰の適時打で初回に2点を先制した。しかし、その真に同感に追い付かれ、二枚看板の野呂亮太と福士開翔が計3本のソロを被弾。打ち取った当たりもフェンス近くまで運ばれ、葛西徳一監督は「光星のプレッシャーを前に、いいところが出せなかった」と振り返った。

夏は2年連続で八学光星に屈した弘前東。川崎主将は「来年こそは雪辱を果たしてほしい」と後輩たちに思いを託した。



仙台育英が決勝へ

第105回全国高校野球選手権大会の出場を懸けた地方大会は22日、各地で行われ、昨夏に東北勢として初の甲子園大会優勝を果たした仙台育英(宮城)が決勝に進んだ。今春の選抜大会を制した山梨学院は延長10回、タイブレークの末に敗退した。

3季連続出場を目指す海星(長崎)は選抜出場の前哨戦日本との準決勝を制した。昨夏代表の九州学院(熊本)や今年の選抜大会出場のクラーク(北北海道)も決勝に進出した。